

◆ “ふるさとちば”のための政策推進を◆

伊藤いさお県議会リポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

空港都市・富里のために…充実の3期目 空港周辺の救急医療の強化を

富里市特集 12月定例県議会一般質問

12月県議会で一般質問に登壇する伊藤勲県議



国際空港・成田空港都市圏として発展が著しい富里市のまちづくりを市民生活の視点で進める伊藤勲(いとう・いさお)県議は「多くの市民の声や要望を県政で生かします」と、充実の3期目に政治手腕を發揮しています。ふるさと富里市民のための県議会活動。信頼される中堅として実効性のある政策力、論理的な発言力で県政界をリードしています。

12月県議会では一般質問に登壇しました。空港との共栄を目指す地域として「空港周辺地域の救急医療体制の充実」「新型インフルエンザ対策」をはじめ、地場産業の農業に視点を置いた「鳥インフルエンザ対策」「米の生産調整」などを質問、栽培漁業で要望提言して注目されました。質疑を1・2面で特集しました。

新型インフルエンザ対策も要望

成田日赤は全国3番目の特定感染症機関に

伊藤議員 空港周辺地域の

救急医療体制の充実・強化について。成田空港に到着した

外国人が、母親が髄膜炎菌感染症で入院したため、本國の

保険庁から、至急に病院で診

察の上投薬を受ける様指示さ

れ、救急病院に相談したこ

る発症事例がなく、投与する

薬もない、対処の仕方がないと

判断されたとの事だが、救急医

療体制上問題はないのか。

健康福祉部長 平成19年は

全国で17人、県内では1人。

20年は11月末現在、全国で10

人、県内で1人となっています。

患者の治療は抗生物質などを速やかに投与することが有効とされ、患者の同居者など感染の危険性の高い人に対しても抗生素質の予防投与が推奨されています。

伊藤議員 海外では、髄膜

炎は子供や高齢者に発症しやすいとの事から、既に髄膜炎のワクチンが、子供に接種されているとの事であり、日本では子供用のワクチンが本年12月より販売されることになったとの事であるが、実態はどの様になつてているか。

健康福祉部長 ワクチンは国内に流通していません。国内発症の髄膜炎は細菌性髄膜炎であり、主因菌はインフルエンザ菌や肺炎球菌となっています。

伊藤議員 早期に対応できる医療の充実、強化を期すべきであると思うがどうか。

健康福祉部長 県では空港周辺地域に2カ所の病院を整備しています。

伊藤いさお県議 PROFILE

●略歴●

- 昭和16年3月 富里町生まれ
- 昭和34年3月 成田高校卒業
- 昭和56年4月 富里町議会議員初当選(5期)
- 平成7年5月 富里町議会議長
- 平成11年4月 県議会議員初当選
- 平成15年4月 県議会再選
- 平成19年4月 県議3期目当選

●現職●

- 県議会 総合企画水道常任委員会委員
- 千葉県農政審議会委員
- 自民党県連 農林水産部会長
- 同 農政問題議員連盟会長
- 同 県議会議員会副委員長

県政や富里市の
ご相談、ご意見を
聞かせてください

伊藤 勲 県議 〒286-0202
事務所 TEL.0476-93-1461

市民の声を生かして
ふるさと富里づくり

伊
藤
い
さ
お
県
議
動

農林水産部長 飼料用米の品種育成については、他県も含めて独自に取り組んでいる事例はなく、本県でも平成19年度から国が育成した品種を対象に選定試験を行いました。その結果、「べこあおば」「北陸184号」の2品種に絞ってきたところです。今後、現地実証試験を行う予定です。



12月県議会一般質問。
自席で答弁を聞く伊藤県議

農業・漁業の振興策を訴え

富里市特集 12月定例県議会一般質問

飼料用米生産の拡大へ

伊藤議員 平成20年度の米の生産調整が未達成の場合、補助事業や融資の面でペナルティーが課せられると言われていたが、どのような状況となっているか。

知事 国はペナルティーをちらつかせるが、大臣に「どんでもないこと」と言った。北海道に生産調整で400億円以上なのに千葉県は5億3千万だから「おかしい」とも言つたが、「千葉県が生産調整をやらないのはけしからん」と言われ、話ができません。

国は20年9月8日付で、土地改良事業など水田農業

にかかる19事業について、21年度分の事業採択や予算配分を生産調整達成市町村に優先的に措置すると通知してきました。20年度の事業に対しては現在のことろ、ペナルティー措置は課せられていません。

伊藤議員 生産調整への協力がなかなか厳しい状況の中、今後ペナルティーが強化された場合、県は生産調整にどのように取り組むと考えなのか。

知事 水田をフル活用して、食料自給率と自給力の向上を図ることが重要であると思っています。

併せて湿田の多い本県の地域特性を十分生かせる制度への改善が大事だと思う。一律でなく経営が成り立つ助成を確保しない限り、千葉県の農家はどんどん減つて行ってしまう。

伊藤議員 超多収性品種の研究開発を推進すべきであり、当面、県外で改良された多収性品種の種子の確保を図り、積極的に飼料米の拡大を推進すべきと考えるがどうか。

なお本年12月1日付け農林水産省より通知があり、今後農地が仮登記された場合、法務局から農業委員会へ連絡されることとなる予定ですので適切に対応したい。

特に日本人が好むマグロのアワビ、ヒラメなど放流効果

は、資源の減少による規制の強化、輸入買付も外国に買い負けする状況にあり、将来的に必要量の確保が難しい状況と伝えられている。

そこで最近の栽培漁業の振興上、実用化され成果をあげたものは、どのようなものがあるか。

農林水産部長 県では平成17年度から21年度を期間とする第5次栽培漁業基本計画で種苗の生産、放流を実施しています。水揚げ量に占める放流魚の割合はアワビ38%、マダイ14%、ヒラメが9%と放流効果が現われていると考えています。

また、内水面関係では、



圈央道促進キャンペーン活動をする伊藤県議

農林水産部長 飼料用米の品種育成については、他県も含めて独自に取り組んでいる事例はなく、本県でも平成19年度から国が育成した品種を対象に選定試験を行いました。その結果、「べこあおば」「北陸184号」の2品種に絞ってきたところです。今後、現地実証試験を行う予定です。

この2品種と専用品種ではないが千葉県で育成した「ちば28号」を利用して、積極的に飼料用米生産の拡大に努めたい。

伊藤議員 仮登記のまま耕作放棄地となっている農地がどれだけあるのか。また、県はこの種の耕作放棄地の解消に向けた取り組みをどのように考えているのか。

農林水産部長 私有財産であり、民間ベースの取り決めであることから県は把握していない。解消へ農業委員会から所有者へ再開拓の手へ貸し付けなどの指導を支援したい。

農場については、死亡羽数や合鴨飼育に関する防疫対策に対する助成措置等を考えるべきと思うがどうか。

伊藤議員 高原性鳥インフルエンザについて、農家養鶏の負担を軽減するため、國の補助制度を活用し、動力噴霧器や防鳥ネットの整備に対し助成しています。

本年5月には秋田県などで白鳥にこの病気のウイルス

農林水産部長 鳥インフル対策は国が助成

対応として全国規模で一齊消毒が行われ、本県でも273戸の養鶏場が消石灰の消毒を実施しました。

県単独の助成は全国でもありません。

伊藤議員 鳴類の餌付けや合鴨飼育に関する防疫対策などを徹底させるべきと思うがどうか。

農林水産部長 合鴨飼育や合鴨飼育に関する防疫対策を徹底し、疫病の報告の義務付けなど養鶏場と同様の防疫対策を実施しています。

また合鴨農法については、飼育実態を把握しながら、農家に対しての野鳥との接触防止対策など適切な飼育管理の指導を徹底し、防疫対策に努めます。

農林水産部長 合鴨飼育や合鴨飼育に関する防疫対策を徹底し、疫病の報告の義務付けなど養鶏場と同様の防疫対策を実施しています。

伊藤議員 鳴類の餌付けや合鴨飼育に関する防疫対策を徹底するべきと思うがどうか。

農林水産部長 合鴨飼育や合鴨飼育に関する防疫対策を徹底し、疫病の報告の義務付けなど養鶏場と同様の防疫対策を実施しています。